公開用

平成２８年度蕨市保健センター運営委員会　議事録

日　時　平成２９年２月２日
午後１時３０分～午後３時
場　所　保健センター（健康教育室）

＜出席者＞

委員：飯野朗子委員長　羽根田高洋委員長代理　柳原登子委員　小泉紀子委員　金子健二委員　鈴木芳美委員　山脇紀子委員　大石圭子委員　佐藤則夫委員　田中義枝委員

事務局：石丸岳広所長　小林桂子保健指導係長　小川有紀子庶務係長　髙橋律子保健師　細野亜紀子保健師

＜欠席者＞

委員：小島淳子委員

配布資料：①「資料　平成２８年度蕨市保健センター運営委員会」②「平成２７年度蕨市保健事業統計」、③「わらび健康アップ計画情報紙　健康密度も日本一のまちへ」

◆委員長及び委員長代理の選出

委員長が飯野朗子委員、委員長代理が羽根田高洋委員に委員からの承認のもと決定。

議事

＜（１）平成２７年度・平成２８年度事業実施状況について＞

◆事務局説明：平成 27 年度・平成 28 年度の主な事業を中心に説明

〇委員長：がん検診受診率は例年通りとのことだが、平成 27 年度のがん発見率はどうか。

事務局：胃がんの発見率が上昇している。個別検診に変わったことも影響があるかもしれない。

委員長：がん検診のレベルは保たれているか。

事務局：発見率は、どの検診についても厚生労働省がとりまとめている許容値内にほぼ収まっている。

〇委員：今年度から胃内視鏡検査を実施しているが、市民に好評で、受けられない人も多かったようだが、応募状況はどうか。

事務局：今年度は、先着順で実施したので、受けられなかった人の数の把握はできないが、申込みが殺到し、すぐに申込終了となってしまった。

委員：申込方法の変更を考えてはどうか。

事務局：来年度は、申込受付後に抽選を行う予定。医師会に協力をいただき、受診人数を増加する予定。胃内視鏡検査が受診できるのは、２年に１回なので、実施を重ねていくうちに、申込者数も落ち着いてくると考えている。

○委員：母子保健の統計で、外国籍の子どもの統計というのは、掲載されていないが、現状はどうか。小学校では外国籍の児童の教育が問題になっている。統計であげてほしい。出生や母子手帳の発行状況はどうか。

事務局：増加傾向にある。乳幼児健診の未受診者に外国籍の子が多い。未受診者をリストアップしており、外国籍の子どもの状況も確認し把握している。中国籍の子どもは、母国に途中で帰ってしまい、追跡調査ができないことも多い。要保護児童対策地域協議会で検討案件としてあげている。外国籍の子どもの出生数などは、統計で出せるようにしていきたい。

○委員：２０歳の歯科疾患予防推進事業については、受診率 10%代なので、もう少し受診率の上昇につながっていくといいが、何か受診率向上の施策などを考えているか。

事務局：成年式に受診啓発パンフレットを配布するとともに、ポスターを掲示して PR に努めている、歯周疾患検診の受診率は、13%～15%なので、２０歳の歯科疾患予防推進事業の受診率の 11.6%という数字は、決して低い数字だとは考えていないが、継続して実施していくため、受診者が増加するようフォローしていきたい。

委員：式典の中でひとこと、健診案内などの PR をしてもらえると、受診率向上につながっていくかもしれない。

委員長代理：２０歳という年齢は、ちょうど健診が１度途切れる年齢で比較的治療の必要が少ない世代。本人は、あまり歯に関心が向いていないかもしれないが、親が歯科健診に関心を持ち、本人に受診を勧めるケースが多い。２０歳という節目として、歯に関心を持つよい機会なので、方法を絞って、継続できる事業として考えていきたい。

委員：親世代の方が歯周病など歯に関心のいく世代なので、親子で誘い合わせて受診できるとよいと思う。

＜（２）ウォーキングと筋力アップで健康密度も日本一プロジェクトについて＞

◆事務局説明：平成 27 年度より健康長寿埼玉モデルの一環として取り組んでいる「ウォーキングと筋力アップで健康密度も日本一プロジェクト」の取組内容につ

いて説明。

○委員長：よい結果が出ているようだ。健康アップステーションのある中央地区の埼玉りそな銀行まで、錦町地区や線路の反対側の塚越地区の人が足を運ぶのは難しいのではないか。事業をさらに拡大して、塚越や錦町に設置する予定はないか。

事務局：県のモデル事業として、実験的に行っている事業なので、平成29年度まで3年間実施をして、結果データが取れたら今後については、どういう方向でいくのか検討していきたい。埼玉りそな銀行も積極的に協力してくれている。モデル事業終了後に、県の動向などを見ながら平成30年度以降は検討していきたい。

事務局：錦町や塚越地区にステーションを設けることは、予算が限られているので難しい。平成29年度については、錦町や塚越地区で、出張健康アップステーションを開設し、活動量計のデータが落とせるようできないか、検討を進めている。

委員：モニターとして参加しており、1日8000歩をめざして歩いていたら、歩きすぎて膝を痛めてしまい、医療費削減に貢献できなかった。ポールウォーキングの講習会は、モニターだけの利用しかできないかと思っていたが、一般の市民もが参加できると知った。市民誰もが参加できることをもっとPRしてほしい。

事務局：1日8000歩・20分というのは、強制ではない。無理に実施してはいけない。4000歩くらいから始めて、自分に合った歩数や強度で取り組んでいくことが大切。

委員：友人もモニターとして取り組んでおり、自分に合った方法で実行しているようで、最近は片足立ちができるようになり、筋力がついたと話している。

事務局：ポールウォーキングの講習会の周知方法はもう少し検討していきたい。

委員：塚越地区から、中央方面に出ていくのはなかなか大変。近くに市民公園もあるので、有効活用して臨時で事業を行ってほしい。県のモデル事業終了後が勝負だと思う。県で進めているポイント事業と合わせて考えていくことにもなるかもしれない。今後は、サポーターの活用を広げ、栄養面の教育に力を入れて取り組んでいただきたい。

＜（3）健（検）診事業について＞

◆事務局説明：がん検診の受診率等について、埼玉県内の市町村や他県の平成26年度実績比較を踏まえて説明。

○委員：肺がんの受診率が以前より下がっているようだが、統計の方法が変わったから下がったのか。

事務局：肺がん検診は、例年50%前後で推移しており、受診者数の増減で、統計方

法の変更によるものではない。

＜（４）平成２９年度事業予定について＞

◆事務局説明：平成 29 年度に保健センターで予定している事業についての方針や新規事業について説明。

〇委員：特定健診の受診率は高いが、特定保健指導率がなかなか上がらない。努力はしていると思うが、何か方策は考えているか。

委員長：特定保健指導の案内時に、保健指導に参加できない人は、ポールウォーキング講習など別の事業を案内するなど、気軽に参加できるような方法を考えてみるのもいいと思う。

事務局：特定保健指導対象者に電話をしてもなかなかつながらず苦慮している。保健センターの事業数が増えているので、担当保健師もいろいろな事業を抱えながら特定保健指導に取り組んでいる。今後は、特定保健指導と保健センターの他の健康教育事業などと組み合わせて実施していくことも検討してみたい。

委員：不妊治療の助成が県で開始されるようだが、国と県の両方から助成が受けられるようになるのか。

事務局：国で不妊治療の助成を行っているが、今回の県の事業は、不妊検査の助成事業となっている。県より１月下旬に通知があったばかりであり、実施する方向で検討を進めているが、まだ県から要綱等の詳細な通知はない。

委員：不妊検査が実施できる市内の医療機関はどこか。

事務局：まだ詳細は不明。

＜（５）その他について＞

◆事務局：保健センター運営委員会については、毎年２月の第１木曜日とし、次年度は、平成３０年２月１日（木）の開催予定と案内。

午後３時　事務局より閉会を宣言。

平成２９年３月３１日議事録確定
蕨市保健センター運営委員会
委員長　飯野　朗子